終わりに

ごみ処理施設は、市民の日常生活に欠くことのできない大切な施設です。

甘南備園焼却施設は、現在のところ安定的な運転ができていますが、稼働後の経過年数を考えると、計画的な更新が必要な時期が迫っています。

本基本構想では、甘南備園焼却施設の後継施設について、基本的な整備方針を検討してきました。その中で循環型社会形成に向けた動向を踏まえ、ごみの分別収集から処理・処分に至る部分についても可能な範囲で考慮しました。

その他プラスチック製容器包装類の分別については、新たに取り組むことで、ごみ焼却量の削減、リサイクルの推進、環境負荷の低減、市民意識の向上が図れるものと考えます。

ごみ処理施設の規模については、過去のごみ処理量の推移を踏まえ、現時点での予測に基づき検討を行いました。実際に整備する施設規模は、この検討結果に加え、今後の人口や社会経済情勢、ごみの減量等の取組状況などを勘案し、施設の設計段階において確定することになります。

その際、近年多発する自然災害時に発生する災害廃棄物への対応力等についての配慮も必要となります。

処理方法等については、環境保全面を最も重視し、さらに資源やエネルギーの有効活用、長期にわたる安定した稼働の確保、経済性などを考慮して検討を行った結果、処理方法としてはエネルギー回収型の焼却施設が最も妥当であり、処理体制は広域処理が単独処理に比べて優位性が高く、枚方市との広域処理は有効との評価になりました。

また、今回の施設整備は甘南備園の既存施設の更新として検討を行ってきたものであり、これまでの経過を踏まえ、建設適地については現甘南備園（拡張を含む。）の地域としています。

今後は枚方市とともに、環境保全等に十分配慮しつつ効率的な施設整備を行っていくため、両市の構想を踏まえた施設整備計画の策定を進めるとともに、施設運営方法等についても検討を行っていく必要があります。